

1年7000時間相当の業務を削減

RPAで事務負担を大幅軽減

日本財託管理サービス

管理戸数2万3000戸の日本財託管理サービス（東京都新宿区）は、このほどRPA（ソフトウェアロボットによる作業の自動化）システムを導入し、年間約7000時間相当の事務処理時間を削減した。

現在RPAで対応しているのは、基幹システムの入力や保険代理業で生じる領収処理、契約書類

の発行など。2018年にRPAを導入し、現在50台が稼働している。

同社では年間およそ1500戸ずつ管理戸数が増えるたびに従業員を採用してきた。RPAの導入により、従業員を増やす必要がなくなったという。人件費が抑えられたことにより、固定費の削減に成功した。

同社のRPA導入が成果を上げている理由は、現場の業務経験のある専

任担当者がいることだ。

現場サイドの課題を吸い上げて導入数を増やしてきた。先行して導入した契約部で業務負担が軽減されていくうちに他の部署からも要望が入るようになった。基幹システムを自社開発している同社ではシステム部が社内であり、こうした要望にもスピーディーに対応できる点が強みとなっている。

「今後、年間25台のべ

ースで、RPAを導入し、人間が介さないロボットだけのフローを確立したい」（鍋谷嘉仁課長代理）

全48戸の賃貸マンション満室

彦根市で設備の希少性で差別化

管彦戸ン室を は た